

# 平成31年度学校自己評価システムシート (県立浦和高等学校)

目指す学校像	尚文昌武の理念のもと、時代の求めるリーダーの育成を目指す。
--------	-------------------------------

重点目標	1 互いの信頼関係のもと、自走する生徒集団づくりをとおして、目指す学校像の実現に取り組む。 2 生徒に、第一志望はゆずらない、との堅い信念を持たせ、全ての職員が授業改善と生徒一人一人の進路実現に取り組む。 3 保護者・県民に対する情報提供をとおして、開かれた学校づくりを推進するとともに、浦和高校の良さを積極的に発信する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 5 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	各年次において「守・破・離」の理念を意識した指導が行われている。 生徒が自分自身の管理(マネジメント)を行い、集団で協力・協働することにより、主体性が最大限伸びるような指導を行う必要がある。	主体性をもって自走する生徒集団づくりをおとしたリーダー育成の推進	ア 自分・時間・モノの管理をとおして、浦高生としての主体的に取り組む姿勢を身に付ける。 イ ホームルーム会長を中心に集団としての力を養い、主体的に学び・支えあう集団を形成させる。 ウ 励まし合い、切磋琢磨し合う生徒集団を主体的に行動する集団へと進化させ、個々の人間的成長を促す。 エ 部活動方針の実施に向けて、各部で短時間で効率的な活動方法を研究する。	ア 自主的に自己管理を行い主体的に取り組んだという回答が75%を超える。 イ ホームルームが協力して主体的に取り組めたという回答が75%を超える。 ウ 卒業生アンケートで浦高生活をとおした人間的成長を感じた生徒が75%を超える。 エ すべての部活動が、部活動方針を踏まえ、各部において適切な休養日を設定する。	ア 自分・時間・モノの管理ができたと答えた生徒は62%、浦高生活を主体的に取り組むことができたと答えた生徒は84%であった。 イ ホームルームの仲間と協力して主体的に取り組めたと答えた生徒は89%であった。 ウ 人間的に成長したという点について、卒業生アンケートによる結果は98%であった。また、浦和高校への総合満足度は98%であった。 エ すべての部活動が、活動計画の中で適切な休養日を行った。	A
2	以下の観点による授業改革及び教員の経験の蓄積・共有を更に推進する必要がある。  ①生徒の主体的な学習態度の醸成 ②基礎基本の早期定着と、書く力・考える力・伝える力の育成 ③主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善 ④大学入学後までも見据えた授業内容の高度化 ⑤グローバル化社会を視野に入れた志の育成  併せて、多くの生徒が目指す国公立大学進学を現役で実現させるための学習指導・進路指導が必要である。	(1) 主体的な学習を促す授業改善の推進	ア 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善の取り組みを組織的に実施し、教員一人ひとりの授業に反映させる。 イ 生徒の主体的な学習を促すための、生徒による授業評価アンケートを実施し、各教科(科目)による検討会を行い授業改善に生かす。 ウ 生徒の書く力・考える力・伝える力を育成する方策や評価の視点を各教科で検討し、教職員全体で共有する。	ア 授業公開・研修会にすべての教員が参加し、自身の授業で実践を行う。 イ 授業公開および授業評価アンケートの結果をもとに各教科で授業検討会年2回以上実施する。 ウ 授業評価アンケートをもとに教職員全体で共有を行い、生徒が授業評価アンケートで書く力・考える力・伝える力が伸びたという回答が75%を超える。	ア 授業公開月間(6,11月)において、すべての教員が授業公開を行った。 イ 一学期末及び三学期を中心に各教科で授業公開及び授業評価アンケートをもとに授業検討会を2回以上実施した。 ウ 授業評価アンケートをもとにした各教科での検討内容を三学期中に共有し、生徒にフィードバックできるよう検討した。また授業評価アンケートで書く力・考える力・伝える力が伸びたという回答は81%であった。	A
	(2) 高い志を育成し、進路実現を支援する取組の推進	ア 講演会及び高大連携事業等の充実 イ 生徒の高い志を支援し、進路実現に向けた積極的な行動や挑戦する姿勢を促すための通信を発行および企画の実施 ウ 日々の授業で培った基礎を確認し、考える力を伸ばす企画の実施、学び合い互いに高め合う集団の形成を促す行事の実施 エ 自己を見つめ将来を考えるプログラムの実施 オ 国際交流事業として行うプログラムの内容の充実と、成果の普及を図る。	ア 第一線で活躍されている講師を招いての講演会、大学との連携プログラム及び医師体験の実施 イ 各年次で年12号以上の進路だよりの発行、OB受験体験講話、大学見学会の実施 ウ 共通テスト基礎演習、入試問題研究会の実施 エ 学部・学科研修会の早期実施、キャリア教育の実施 オ サマープログラム(英国・米国)及びウィットギフト派遣事業(英国)を実施する。事前研修を行い、成果については、ポスター掲示及びHPで発表する。	ア 進路講演会ではジャーナリストの池上彰氏を招き、「21世紀の君たちへ」というテーマでお話を頂いた。順天堂医院の協力の下医師体験を実施し、3年生3名が参加した。 イ 3年次18号、2年次13号、1年次13号の「進路だより」をプリント及びWebで発行した。情報の共有と進路意識の高揚を図った。 ウ1, 2年次で共通テスト基礎演習、2年次で入試問題研究会を実施した。学力の到達度を確認し、2年次では受験に向けての学習をスタートさせた。 エ1年次は5月に学部学科研究を実施し、グループ毎に研究を発表。進路選択の参考となった。OB講話を各年次で実施。受験や将来のことを考える時間を持った。 オ サマープログラムは8名を派遣し、成果報告のポスターも好評であった。来年度は10名程度の派遣を計画している。ウィットギフト短期派遣は今年度20名募集のところ、41名の応募があり、説明会にはさらに多くの生徒が参加したが、新型コロナウイルスの影響により今年度派遣は中止した。またウィットギフト派遣生がケンブリッジ大学進学を果たし(本校4人目)、米国の大学を直接受検する生徒も徐々に増加している。	A	
3	HPや教育活動説明会、土曜公開授業などを通じて情報発信を行ってきた。本校の様々な取組や成果について、より積極的かつ組織的に情報を発信することにより、小・中学校の生徒・保護者をはじめとする県民のニーズに応える必要がある。	積極的な情報提供による開かれた学校づくりの推進	ア 全職員による組織的・計画的な広報活動の展開 イ 教育活動説明会、土曜公開授業の実施 ウ 小学生とその保護者対象行事の実施、小学生の動向分析 エ HP、学校情報提供の機会の積極的な活用	ア 本校の魅力効果を効果的に発信できるよう企画立案し、運営する。 イ 本校主催の学校説明会(教育活動説明会、土曜公開授業)にのべ2000人の参加を目指す。 ウ 小学生対象教室、小学生の保護者を対象した学校説明会を実施し、アンケートを実施する。 エ HPの新規のアクセス20万件、本校以外が主催する説明会への積極的な参加	ア 年々内容が洗練され、全職員の協力の下、スムーズな運営と効果的な発信ができた。 イ 教育活動説明会は1525名(2回の計)、土曜公開授業は913名(5回の計)が参加した。 ウ 小学生対象教室は12の部活動に650名の小学生が参加し、保護者対象講演会及び説明会は198名の保護者が参加した。好評を得た。近隣小学校4校に、小学校GS(グローバルスタディ)授業に生徒を派遣した。 エ HPアクセス数は昨年より547,677件増加した。(年間1,451,746回(2月5日現在))また更新回数は294回であった。さいたまスーパーアリーナでの進学フェアや塾主催の学校説明会に参加した。	A

学校関係者評価
実施日 令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等
将来、リーダーとなる浦高生には、生徒の身の回りの整理・整頓並びに他者への配慮(思いやり)の育成も重要である。部活動方針については、今後日々の活動の内情や時間なども生徒が主体となって考えていく必要がある。  授業公開と授業評価アンケートと授業検討会の三者の有効な相互連携によって、主体的な学習を促す授業改善が一層進むと思う。授業検討会を実施した内容を職員全体で共有していく必要がある。また、カリキュラムマネジメントの取組については、表現方法や内容も含め検討が必要である。  重点項目のいくつかを具体的方策に記述してもよいのではないかと。夏季休業中のSLICEプログラム、冬季休業中のエンパワメント英語プログラムなども効果があった取り組みであると聞く。そういった実施報告も第三者から見えるようにしてほしい。また、重点目標にある「第一志望はゆずらない」と、年度目標及び年度評価との関係が分かりにくいので、次年度以降検討してほしい。
小学生対象教室や小学生保護者説明会など効果を上げているようだが、昨年度同様参加者の追跡調査を行うなどして、より効果的な情報発信をしてもよいのではないかと。

